

## 緩和ケア科



診療科長  
青木 友和

専門医資格等 日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医 指導医、地方会評議員  
日本脳卒中学会 脳卒中専門医  
日本癌治療学会 暫定教育医 脳腫瘍ガイドライン作製委員  
アメリカ癌治療学会(ASCO)会員  
京都大学医学博士  
京都大学医学部非常勤講師

専門分野 脳腫瘍(悪性)、下垂体腫瘍、顔面けいれん、三叉神経痛、  
緩和ケア

### □ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	河鱒 憲幸	日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医 日本内科学会 認定内科医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本神経内視鏡学会 神経内視鏡技術認定医 USMLE/ECFMG certificate 京都大学医学博士	脳神経外科、一般内科、がん	
非常勤医師	土屋 宣之	PEACE緩和ケア 指導者 京滋緩和ケア研究会世話人 日本がん治療認定医機構 暫定教育医 日本臨床検査医学会 臨床検査管理医 京都府医師会がん登録委員会 委員 日本外科学会 認定医	胃腸、肝臓、乳腺	
非常勤歯科医師	下郷麻衣子		口腔内ケア	
スタッフ	飯塚三枝子		音楽療法	
スタッフ	畑 亜紀子		アロマセラピー	
心理療法士	高垣 愉佳		心理療法	

### □ 診療科の特徴

施設認定等 日本緩和医療学会

### □ 主な対象疾患

癌一般

### □ 診療(業務)内容

1. 与えられた構造の中での環境整備—視覚(照明、花木)、聴覚(院内放送の個室内制限)など—
2. 利用者の価値観や生き方を尊重するためにことさら根気と丁寧さを要するケア、自立性を奪われていく困難と苦痛の中で行われるケア
3. 上記のような場を提供・俯瞰、特殊な感情労働に従事するケアスタッフへの目配り
4. 場の提供に続いてそこで有意義な時間空間を作る力を持った利用者や家族の選択のために入棟の適応の可否を判定員会で議論検討する。

5. 目的としてではなく手段としての症状緩和、薬剤による対処療法の役割は限定的である。たとえ症状緩和に成功しなくとも生きる場所を提供できる可能性もある。自宅に遠く及ばなくとも、多職種による行事企画や音楽療法、アロマセラピー、食事への気配り、家人への配慮を通してかけがえない時間を過ごす場を作りうる。あくまで我々は触媒でしかないのだが。
6. 在宅への橋渡し、レスパイト入院への門戸開放
7. 遺族への配慮：訪問遺族の傾聴に時間をかける他に遺族会、遺族への書状を通して継続的な関わりを試みる
8. 緩和ケアチームを中心とした、一般病棟、地域医療への貢献

## □ 診療実績(平成29年度)

### 緩和ケア内科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
6.8名	17名	45.4日

### 緩和ケア内科外来患者数

1日平均患者数
0.5名

### 緩和ケア外科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
12.2名	46名	50.7日

### 緩和ケア外科外来患者数

1日平均患者数
2.6名

## □ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者・演題・学会名
研究会	山下陽生、川端康弘、福田俊一、青木友和、河原崎知、塚原徹也、中澤拓也 脳底動脈本幹部の脳動脈瘤に対してステント支援下に塞栓術を行った3例 第73回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会 2017.4.8 大阪
国内学会	Tomokazu Aoki Phase 1/2 Study of Temozolomide Plus Nimustine Chemotherapy for Recurrent Malignant Gliomas: Kyoto Neuro-oncology Group 5th Quadrennial meeting of the World federation of Neuro-Oncology Societies(WFNOS) 2017.5.5 Zurich, Switzerland
国内学会	青木友和 グリオーマの免疫チェックポイントと治療 第37回日本脳神経外科コンgres総会 2017.5.11 横浜
国内学会	増田裕一、安田謙、福田俊一、中村道三、栗田康弘、高田真基、齊ノ内信、河原崎知、川端康弘、村瀬永子、大谷良、青木友和、米本直裕、赤尾昌治、塚原徹也 日本人の非弁膜症性心房細動患者における心原性脳塞栓症のリスク因子：伏見A Fレジストリ 第4回日本心血管脳卒中学会学術集会 2017.6.3 福岡
研究会	青木友和 グリオーマの新しい免疫療法の可能性 脳腫瘍2017 2017.7.21 京都
国内学会	青木友和 再発悪性神経膠腫に対するTemozolomideとACNUの併用化学療法(TA療法)の第I/II相試験 日本脳神経外科学会 第76回学術総会 2017.10.14 名古屋
国内学会	Tomokazu Aoki, Yoshiki Arakawa, Tetsuya Ueba, Masashi Oda, Namiko Nishida, Yukinori Akiyama, Tetsuya Tsukahara, Koichi Iwasaki, Nobuhiro Mikuni and Susumu Miyamoto Phase 1/II Study of Temozolomide Plus Nimustine Chemotherapy for Recurrent Malignant Gliomas : Kyoto Neuro-oncology Group 22th Annual Meeting Society for Neuro Oncology 2017, 11.18 San francisco, California
研究会	河崎憲幸 緩和ケアとは がんささえあいイベント 2017.06.14 京都
研究会	河崎憲幸 緩和ケアとは 地域連携フォーラム 2017.09.16 京都
研究会	河崎憲幸 緩和ケアとは 医局会 勉強会 2017.11.17 京都
研究会	河崎憲幸 緩和ケアとは 第11回緩和ケア研修会(PEACE) 2017.12.03 京都
研究会	河崎憲幸、櫻井真知子、飯塚三枝子 全人的ケアに音楽療法が大きな役割を果たした1例 第11回日本音楽医療研究会学術集会 2017.12.10 東京
研究会	下郷 麻衣子 多職種連携による終末期がん患者に対する口腔ケアの効果 第34回 伏見医師会 癌医療病診連携の会 2017.4.15 京都
研究会	下郷 麻衣子 終末期がん患者の口腔乾燥と評価方法 緩和ケア病棟勉強会 2017.6.1 京都
研究会	下郷 麻衣子 終末期がん患者の口腔トラブルとケア～緩和ケア病棟スタッフと共に歩んだ2年～ 第22回 日本緩和医療学会学術大会 2017. 6.24 横浜
研究会	下郷 麻衣子 がん患者の口腔ケア がん看護研修 ステップIプログラム 2017. 7.1 京都
研究会	下郷 麻衣子 終末期がん患者の口腔カンジダ症 緩和ケア病棟勉強会 2017. 7.26 京都
研究会	下郷 麻衣子 あなたなら、このお口をどう評価しますか？終末期がん患者に対する有効な客観的口腔アセスメントを目指して 緩和ケア病棟 ワークショップ 2017. 8.11 京都
研究会	下郷 麻衣子 栄養管理における口腔サポートの意義 第20回伏見栄養療法・在宅医療研究会 2017. 8.26 京都
研究会	下郷 麻衣子 終末期がん患者の口腔環境を考える 簡便で非侵襲的な客観的口腔アセスメントを目指して Opening Remarks ワークショップ:京都府歯科医師会、伏見歯科医師会、京都府歯科衛生士会 2017. 10.7 京都
研究会	下郷 麻衣子 がん患者の口腔内の問題と医科歯科連携 第11回うずらPEACE 緩和ケア研修会 2017. 12.3 京都

研究会	下郷麻衣子、青木友和、土屋宣之 緩和ケア病棟と共に歩んだ3年—当院での歯科の緩和ケア病棟への関り— 第174回 京都歯科口腔外科集談会 2017.12.16 京都
研究会	下郷 麻衣子 栄養管理における口腔機能管理の意義 第3回NST勉強会 2018.1.26 京都
研究会	下郷 麻衣子 緩和ケア病棟の歯科的リアルワールド 第294回開放型病床生涯教育研修会 2018.2.1 長浜
研究会	下郷 麻衣子 緩和ケア病棟における看護師の口腔に対する意識調査-患者さんに優しい口腔ケアの提供を目指して- 緩和ケア病棟勉強会 2018.2.2 京都
研究会	下郷麻衣子、青木友和、土屋宣之、長谷川浩二 終末期がん患者の口腔の問題と医科歯科連携の重要性 第30回 下西集談会 2018.3.3 京都
研究会	飯塚三枝子 他 弦楽四重奏での参加 リボنزハウスコンサート 2017.6.3 京都
研究会	飯塚三枝子 他 弦楽トリオでの参加 がん助け合いコンサート 2017.11.3 京都
研究会	飯塚三枝子 他 死を乗り越えるための五講 第五講『生きるための心の音楽』下京西医師会 2017.8.29 京都
研究会	辰己晃造、小玉美希子、古川順章、粉川俊則、桶本幸、小林勝昭、河鱈憲幸、土屋宣之 多発性骨転移、顎骨壊死に対して高用量オピオイドを用いてコントロールを行った症例 日本臨床腫瘍薬学会 2018.3.17 横浜
研究会	辰己晃造、古川順章、桶本幸、小林勝昭、藤枝英美 当院の退院時服薬指導書の実態調査と今後の展望 近畿薬剤師合同学術大会 2018.2018.2.4 京都
研究会	小玉美希子、辰己晃造 オピオイドの基本 緩和ケア病棟勉強会 2017.11.22 緩和ケア病棟勉強会
研究会	辰己晃造 ケタミンについて 緩和ケア病棟勉強会 2018.1.29 緩和ケア病棟勉強会
研究会	畑垂紀子、久保速三、土屋宣之 アロマセラピーのプレースト効果を介した記憶想起により苦痛緩和できた症例 日本緩和医療学会 2017.6.29 横浜